

日外協は10月(18日～25日)に、ASEAN 各国の日本語スピーチ・コンテストで優秀な成績を収めた人を日本に招き、国際交流を行う。ミャンマー、タイ、ベトナム、マレーシアでも日本語研さんの成果を競う大会が行われた。(開催順に掲載)



ミャンマー

「感動も、迫力もあった！」

MOSAR Kay Japanese 主宰、教育コンサルタント
ケイ・ズインウイン

2025年10月18日、在ミャンマー日本国大使館、ミャンマー元日本留学生協会(MAJA)および国際交流基金ヤンゴン日本文化センターの共催で、「第26回日本語スピーチコンテスト 2025年」が開催された。本大会は、ヤンゴン日本人会(YJA)、ミャンマー日本商工会議所(JCCM)、日本ミャンマー協会、日本在外企業協会(JOEA)加盟企業のご支援のもと実施され、日本語教育の普及と日緬交流の促進を目的とした伝統ある行事として毎年開催されている。

今回も、多数の応募者の中から予選を通過した15人が本選に出場し、それぞれが自身の経験や将来への思いを日本語で発表。社会課題、家族、夢、技術、異文化理解など、多彩なテーマによるオリジナリティーあふれるスピーチが披露され、日本語運用能力だけでなく、表現力や論理的思考力も高く評価された。

優勝したテーヌスエさんのテーマは「外国語を学ぶことで広がる世界」。会場は多くの来場者でにぎわい、日本語を通じて互いの考えや価値観を共有する貴重な機会となった。また、企業関係者から特別賞(感動した、迫力があつた)も贈られた。



テーヌスエさん



挨拶をされる MAJA 会長(当時)のミョーキン博士



タイ

等身大の思いと将来への希望

在タイ日本国大使館
谷村 隆昌

2026年1月21日、在タイ日本国大使館、国際交流基金バンコク日本文化センター、タイ王国元日本留学生協会、盤谷日本人商工会議所およびタイ国日本人会主催による第52回日本語弁論大会がバンコクにおいて開催された。本大会は、タイ国内の高校、大学等で日本語を学んでいる者を対象としたもので、日本語能力の向上と日タイ両国の相互理解促進を目的に毎年開催されている。今年も全国各地の高校、大学から選抜された20人が出場し、会場は熱気に包まれた。

各出場者は、自らが選んだテーマについて、約4～5分間のスピーチを披露。今回の弁論大会のテーマは、「私の家族」「本、人工知能の時代に輝く希望の光」などで、学生たちの等身大の思いと将来への希望が込められていた。流暢な日本語表現に加え、豊かな身振りや表情、そして聴衆の心を動かす語り口に、温かい拍手が何度も沸き起こった。

在タイ日本国大使館や日本語教育関係者らによる厳正な審査の結果、大学・一般の部の優勝者にはアサンプション大学のテウィット・ジンダタンヤティティさんが選ばれた。



テウィット・ジンダタンヤティティさん

テーマは「いっしょに！『やってみる精神』」。



タイ 日本語弁論大会 全体写真

日外協が国際交流事業を始めたのは1986(昭和61)年。交流の目的は、ASEANの若い世代の人たちに日本への理解をより深めてもらい、将来、日本との架け橋になってもらうこと。今回で40回目を迎え、日本とASEANの友好と友情のネットワークを広げている。



ベトナム

日本語学習者の荣誉ある登竜門

ハノイ大学 日本語・日本文化コラボレーションセンター
所長 ファム・トゥー・フオン

2026年6月20日、今年で2回目を迎えた全国規模の日本語チームスピーチコンテスト「Japanese Speaking Team Contest 2026(HANU × FPT CUP)」の決勝大会が開催された。今回のメインテーマは、今まさに世界的な議論の渦中にある「THE AI ERA IN JAPAN(日本のAI時代)」。

本コンテストは、ハノイ大学とFPT Software Academy およびFPT Japanが共同主催し、語学力のみならず、論理的思考力やチームワークを総合的に問うもので、ベトナム全国の日本語学習者にとって荣誉ある登竜門の一つとして定着しつつある。

決勝に進出した5チームは、高度な日本語能力と鋭い論理的思考、そして見事なチームワークを発揮し、AI時代での人間と技術の共生について多角的な視点からアイデアを提示。審査員からの厳しい質疑応答にも堂々と対応し、白熱した議論の末に見事優勝をつかんだのは、ハノイ大学とベトナム国家大学ハノイ外国語大学の学生の3人によるチーム「Mochi」だった。チームを代表してグエン・ファイ・ヒエップさんが来日する。

この大会から「ITスキル×日本語能力」を兼ね備えた若い人材が日本をはじめ世界へ羽ばたくことに期待したい。



優勝した「Mochi」チーム、中央が来日するグエン・ファイ・ヒエップさん



マレーシア

日本への揺るぎない思い

A To Z Language Centre SDN BHD
Principal 西尾 亜希子

2026年7月18日、当校はマレーシア・クアラルンプールのJW マリオットホテルにて、第7回日本語ビジネスプレゼンテーションコンテスト(学生の部)を開催。今年も多く応募者から選ばれた大学生8人が登壇し、「仕事」をテーマにそれぞれの経験や将来の夢について発表。非常に充実した内容に加え、日本語力のみならず、自らの考えを相手に伝える力の高さが印象的だった。

本コンテストは緊張感がありながらも温かい雰囲気が特徴であり、毎年、発表者同士や観覧者との交流が生まれている。優勝したジョヴェンナさんは、「好きなことを仕事にするべきか」をテーマに、流暢な日本語で説得力のある発表を行った。

幼い頃から日本に憧れ、日本語を独学で学び続けてきた彼女の「好きなこと」は日本で働くこと。「日本が嫌いなことは絶対はない」との力強い言葉からは、日本への揺るぎない思いが伝わってきた。結果発表では目を潤ませながら喜びを語る姿が印象的で、会場は大きな拍手に包まれた。



優勝したジョヴェンナさん(左)と西尾さん

日外協の日本招へいプログラムは、日本語学習者にとって大きな目標であり、学習意欲をさらに高める貴重な機会となっている。本コンテストが今後も多くの学生に夢や挑戦の機会を提供し、発展していくことを願っている。



全参加者と大会関係者一同